

1歳以上の犬の90%が歯周病

歯周病は治療が必要な“病気”です

命に関わる

歯周病とは・・・?

クサイ・キタナイだけじゃない。
歯周病菌が歯肉を炎症させたり、顎の骨を溶かす
犬自身もとても辛い病気です。

歯周病の治療ってどんなことをするの・・・?

歯石が縁下（歯周ポケットの奥）まで進行していたら
動物病院で麻酔をして歯石除去＆歯周病治療が必要に
なります。

専門的な歯科治療は一般動物病院ではなかなかできません。
（歯科専用レントゲン設備がある病院は約3%）

- 麻酔が得意で
 - 歯科に専門的な知識がある
- 動物病院選びをすることが大切です。

ポイント「普段のかかりつけ医と、専門治療のセカンドオピニオンは分けて考えましょう。」

歯周病を放っておくと・・・?

--- 口腔内トラブル ---

- ・歯茎の腫れ、痛み
- ・歯がぐらつく、抜ける
- ・あごの骨が溶ける、骨折
- ・外歯癭（がいしろう）骨まで溶けて顔の皮膚に穴が開く
- ・内歯癭（ないしろう）歯肉に穴が開く
- ・口鼻瘻管（こうびろうかん）口腔と鼻腔の間に穴が開く
- ・潰瘍性歯周口内炎

--- 口腔内トラブルだけでなく全身にも ---

- ・口腔内の歯周病菌が血流にのり全身にめぐる
- ・心不全 ・腎不全 ・肺不全 ・敗血症 ・誤嚥性肺炎

麻酔が怖いから無麻酔歯石除去が気になる

私たちは
反対です!

無麻酔歯石除去は【歯周病のケアにも治療にもなりません!】

縁下の歯石がそのままになってしまい、無意味な上、

- ・歯に傷をつけ、歯垢歯石が逆につきやすくなる
 - ・意識がある状態で体を固定され痛みや恐怖に耐えなければならない
 - ・トラウマになり自宅での歯磨きが困難になる
 - ・気管を守れず誤嚥、窒息の危険
 - ・縁上の歯石を除去し口腔ケアしたつもりになって縁下の異常を見逃す
 - ・治療が必要な範疇に越権すると違法
 - ・とくに麻酔リスクがある老犬や持病のある子にとって、苦痛のストレスの方が何倍も危険
- など、デメリットが非常に多いです。

手軽に安価で、見た目だけちょっときれいになるメリットに比べ、リスクが大きすぎますので
私たちは無麻酔歯石除去は決しておすすめできません。



適切な麻酔なら怖くない

健康な犬であれば、麻酔リスクは0.1%以下、
老犬・心疾患であっても1%ほどと言われています。
たしかに0ではありませんが、麻酔に特化した獣医師なら
さらにリスクは抑えられ、きちんと麻酔前検査を受ければ
過度に不安にならず、安心して手術を受けられます。

🐾 口腔内の健康を保つためにできる事

一番の口腔ケアは「日常のハミガキ」
毎日完璧な歯磨きはとても難しいかもしれませんが
少しずつできる範囲で予防しましょう。
また、いくら歯磨きしていても、犬は人間より
歯周病になりやすい生き物です。
定期的な検査・治療が必要になるという心づもりを
しておくことが大切です。



口腔ケアのプランを立てましょう

ご家族で話し合って、

- ・歯科を相談する病院を決める。
- ・〇歳で診察をしてもらう。（歯肉の腫れや歯石があればできるだけ早めに）
- ・歯磨きのトレーニングや習慣化を家族で協力しておこなう。
- ・〇年ペースで歯周病治療が必要になる可能性を踏まえ、
予算・計画を立てておく。